

# 檜原村の「ふるさとの森」里山再生事業 指定管理料ゼロで苦闘

檜原村本宿の村立小中一貫校「檜原学園」裏山にある35畝の村有林「ふるさとの森」で、村内のNPO法人・フジの森が7月から村の指定管理者として里山の再生に乗り出した。しかし、村からの1年間の指定管理料は異例のゼロ円。公募で採用された民間助成金を活動費に充て、森づくりの体験教室など市民の力で雑木林の手入れを進める。

【横井信洋】

「ふるさとの森」のわりしている。

大半は広葉樹林。まき、フジの森は南郷地区や炭を出す新炭林、大で89年から森林活用の手セメント会社の採石事業を始め、05年に法場などとして使われて人化。ふるさとの森のきたが、1978年の整備では、里山を継続閉山後は30年以上も放置して管理し、地域おこ置されていた。人の手しや教育の場として役が離れたため、日光の立てることを目標に再入らない暗い森に様変生プランを立てた。不

## フジの森「市民の力借り長い目で」



要な木を切り、日光が入りやすくなることも、動植物の生態を調査。近隣の観光地の「払沢の滝」から足を伸ばせる散策コースを今後整備し、民間助成金で移動式の炭焼き窯も購入した。

者に手を挙げた。市民の力を借りながら長い目で里山再生に取り組んでいきたい」と意欲を見せる。13年度以降の指定管理料計上は村に要望しているという。

村産業環境課によると、09～11年度に都の補助で管理棟や五右衛門風呂を設置。毎年の森林整備費用は企業研修の指導料やまきなどの販売収入で賄う予定だったというが、思惑通りには進んでいない。担当者は「不都合な点があれば、来年度は指定管理料の予算化も検討したい」と話す。体験教室などの問い合わせはフジの森(042・5998・3097)まで。

雑木林の再生事業が始まった「ふるさとの森」の入り口付近―檜原村で